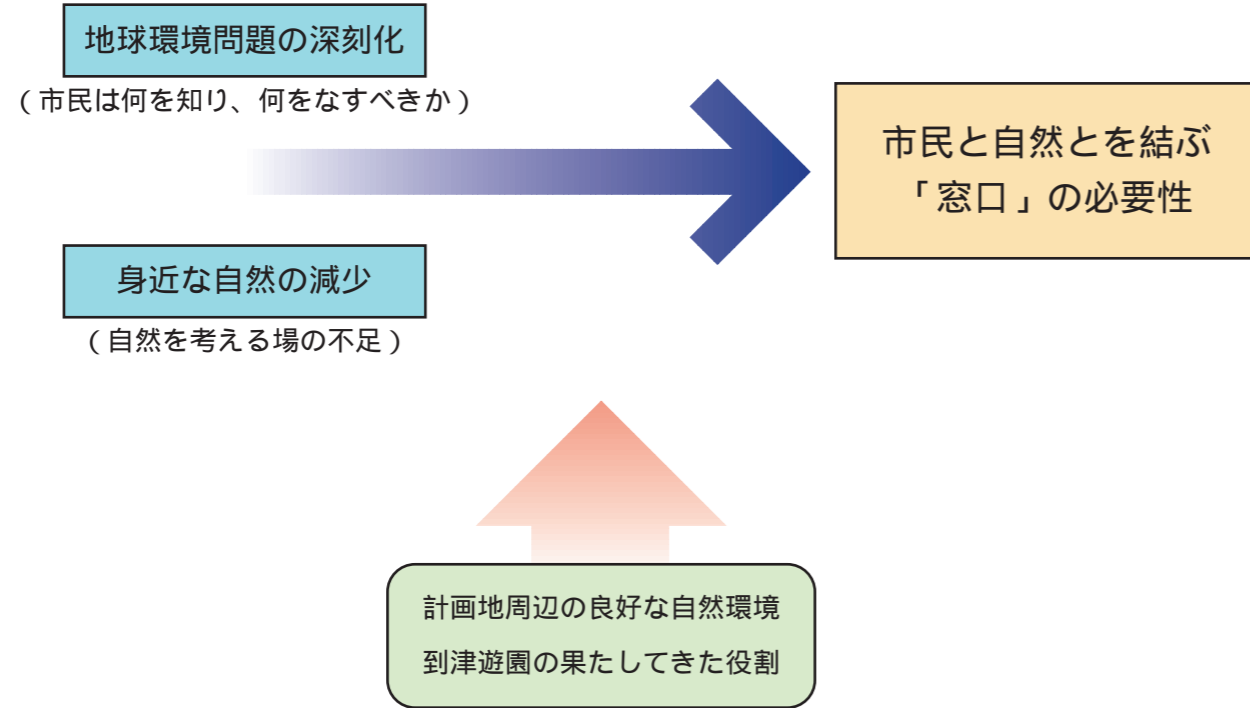


計画理念

都市と自然環境とを結びつける「窓口」となる公園をめざす

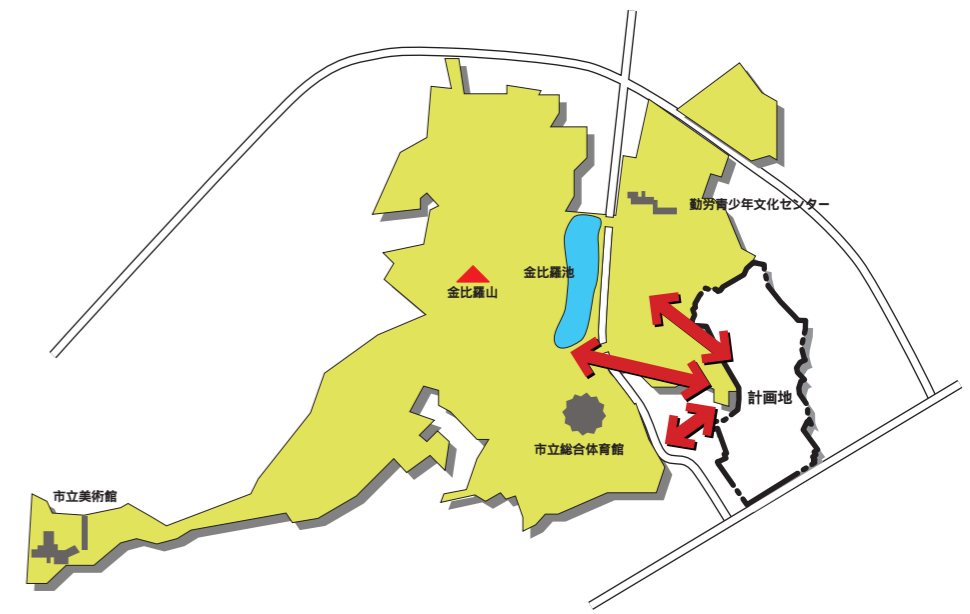


世界の動物と自然環境への窓口

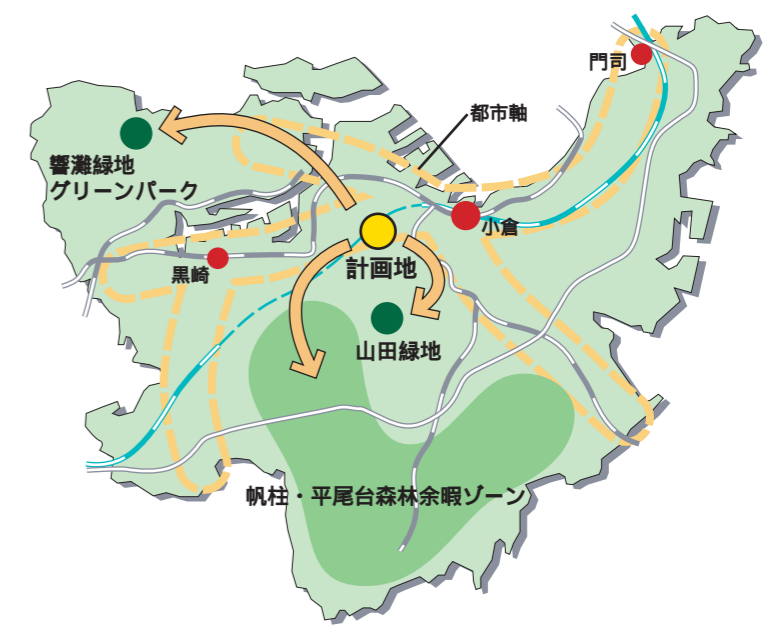
- ・世界の興味深い野生の世界を覗き見る「窓口」
- ・地球環境の多様性や動物の生態に気づき、知るための「窓口」

北九州の身近な自然への窓口

- ・郷土の自然への感心を深める「窓口」
- ・市内の自然環境へと市民をいざなう「窓口」

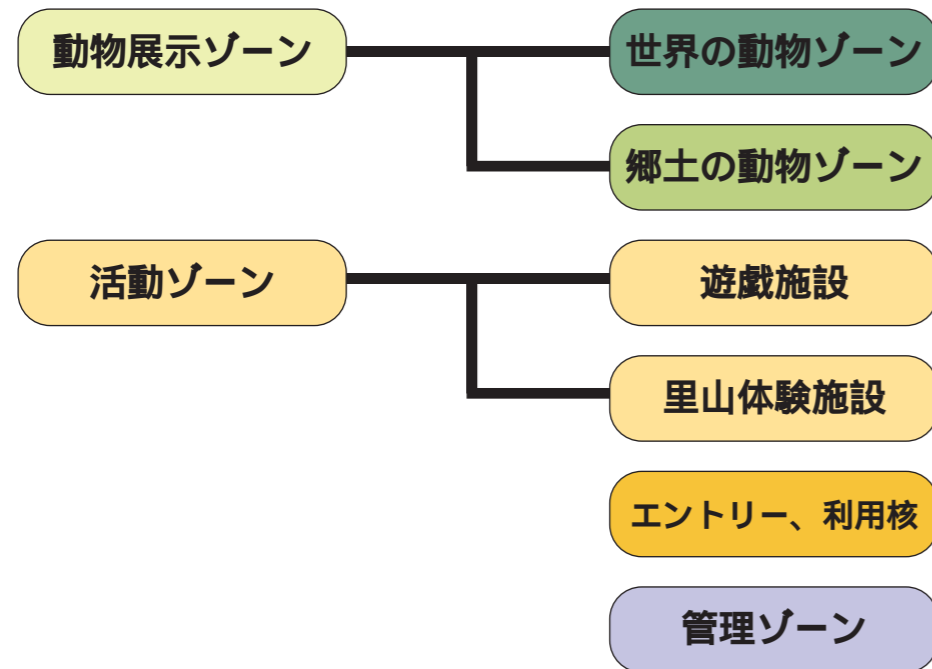


中央公園の自然を積極的に活用し、身近な自然を体感するための「窓口」となる



市域の様々な自然環境や関連施設へと市民をいざなう「窓口」となる

導入機能の構成



空間配置・動線の考え方

- 基本テーマである2つの展示ゾーン（郷土の動物、世界の動物）を骨格に機能配置を行う。
- 中央公園との関連や二つの展示ゾーンを結びつける拠点として「利用核」を各入口付近に設置する。また、この「利用核」は、環境教育や情報発信の拠点としても位置づける。
- 各利用核を結ぶ動線にライドを用いることにより、新しい展示体験を生み出すとともに、移動の利便性を向上させる。
- 活動的な体験やアトラクションが伴う「活動ゾーン」を動物展示ゾーンから明確に区分することにより、動物展示ゾーンでの“自然環境の体感”を損なわないように配慮するとともに、展示動物への影響を防ぐ。

